

(月刊『左派』から)

「アルバイトが生きられてこそ、みんなが生きられる！」

第2回アルバデーが開催されます。

ハ・ユンジョン (アルバ労組 組織チーム)

昨年5月1日、労働者の日を迎えて、アルバ連帯を中心に数団体がともにアルバイトのメーデー「アルバデー」を開催しました。「最低賃金を1万ウォンに」、「大企業の利潤をアルバイト労働者たちに」、「私たちに良い職を」という3つのスローガンで昨年の第1回アルバデーは力強く行われました。約200名以上が参加してソウル市庁と明洞一帯を練り歩きながら、音楽に合わせてダンスしたり、「チキンが食べたい。最低賃金1万ウォン!」「肉が食べたい。最低賃金1万ウォン!」のような切々とした(?)スローガンを叫んで、最低賃金を1万ウォンの声を広く宣伝しました。今年は「アルバイト生きられてこそ、皆が生きられる」というスローガンのもとに、4つの基調でアルバデーが開催されます。

一最低賃金を1万ウォンまで上げろ

昨年の最低賃金1万ウォン要求に続き、今年も最低賃金の決定される時期に合わせて、アルバデーをはじめとした最低賃金1万ウォン運動を本格的に開始します。2012年基準で最低賃金委員会が発表した未婚・一人暮らしの労働者の月平均生計費は約141万ウォン(14万円強)でした。今年、民主労総が発表した2014年の標準生計費資料によれば、1人世帯の生計費は224万8050ウォン(22万5千円程)です。今すぐに1時間あたりの最低賃金が1万ウォンになったとしても週5日・一日8時間働く労働者の賃金が209万ウォン(21万円弱)であることを考えれば、1万ウォンは無理な要求ではありません。今年のアルバデーを迎えて最低賃金1万ウォンの声のボリュームを高めていきます。

一職場での差別を無くせ

職場には優劣の関係が存在します。しかし女性、青少年、性的マイノリティー等の理由で、職場には優劣の関係を越える差別があります。アルバイトをしているという理由で見くびったり、常習的な言葉のセクハラ・身体へのセクハラを繰り返す悪徳店主たち、青少年だと言う理由でタメ口を使い、きちんと賃金を支払わない場合が多くあります。社員たちには食事時間と休憩時間が保障されますが、アルバイトにはそれさえも許されない場合もあります。公然と行われている職場での差別をなくすこともまた、アルバデーの重要な要求です。

一大企業・ビル・オーナーの横暴を無くせ

今年のアルバデーには、心安らかに商売したい商人たちの会である「ママサンモ」と、

セブンイレブンーバイ・ザ・ウェイ加盟店主協議会とも共同で主催することにしました。多くのアルバイトたちの職場は日常生活において私たちが訪ねる道にある数多くのお店です。アルバイトを雇用している「社長さん」たちは零細自営業者でもあり、コンビニ店主でもあります。しかし最近、ヨニ洞にあるカフェ「wunderbar (ブンダバー)」での事態を見れば分かるように、アルバイトの「社長」である零細自営業者たちは、ビル・オーナーの横暴によって全財産を投資し、その結果自分自身の生計手段を失うという経験をしています。コンビニ店の場合、度の過ぎた初期投資の費用とロイヤリティーによって自分自身の雇用しているアルバイトよりも少ない収益しか得ていない店主たちも大勢います。アルバイトが生きようとすれば、大企業とビル・オーナーの横暴に苦しめられている零細自営業者とコンビニ店主との連帯も必要であるため、今年のアルバデーはより多くの人々の声を上げていこうと思います。

—全員にベーシック・インカムを

ベーシック・インカムは、すべての社会構成員に無条件に個別に支給される所得です。働いている人も、働いていない人も、この社会の構成員ならば受け取ることができるベーシック・インカムはアルバイトをしている人たちにも大変魅力的な制度ではないでしょうか？いつ首になるか分からない不安定な雇用であるアルバイト、解雇が生活への脅威に直結するアルバイトにとって、ベーシック・インカムが保障される社会は想像するだけでも安心な気持ちになります。今年は、ベーシック・インカム青「少」年ネットワークとともにアルバデーを準備しながら、ベーシック・インカムの声も一緒に挙げて行こうと思います。アルバイト労働者の運動とベーシック・インカムが「クロス」する最初の機会になるのではないかと思います。ベーシック・インカムを熱烈に支持する多くの方々からアルバデーに参加してくださることを期待しています。

今年のアルバデーには、ベーシック・インカム青「少」年ネットワーク、ベーシック・インカム（韓国）ネットワーク、平和キャンプソウル支部ナヌム人権センター、左派労働者会、労働党青年学生委員会、同性愛者人権連帯性的少数者労働権チーム、人を考える人権・法律共同体ドゥロンドゥロン（訳注：「ぶつぶつ」の意味）、心安らかに商売したい商人の会、セブンイレブンーバイ・ザ・ウェイ加盟店主協議会、青年左派、青少年労働人権ネットワーク、最低賃金 1 万ウォン委員会、忠清南道非正規職支援センター、キム・ジョンジン研究院（韓国労働社会研究所）、韓国非正規労働センター、革命祈禱院、アルバ労組、アルバ連帯、道を探す教会など、全部で 19 の団体と個人が参加します。アルバイトをはじめとして零細自営業者とコンビニ店主が参加し、ベーシック・インカムにいたるまで多様な要求でいっそう豊かになった第 2 回アルバデーに月刊『左派』購読者をご招待します。ご参加お待ちしております。